

宮崎市立小松台小学校の学力向上の取組

1 学校の概要

本校は、昭和60年4月に開校し、昨年度20周年を迎えた学校である。開校当時は、オープンスペースがあり近代的な建築様相で注目を浴びた学校でもある。学校周辺は新興住宅が建ち並び、小松台ハイランドという大きな住宅地の中にある。校地面積36,210㎡、校舎面積5,068㎡、2階建ての校舎は住宅地に似合った切妻屋根としてひときは威容をはなっている。

学校からは北東に平和の塔とシーガイアを望み、東方眼下に大淀川を見下ろすとともに東南方向に宮崎市街と太平洋を一望できる。それは誠に雄大な気宇を養う環境とすることができる。

また、ユニークな学校建築として、屋外では芝生を敷きつめたステージ付きの音楽広場や緑陰ベンチ付きの語らい広場、屋内ではハイサイドライトによる採光の確保、じゅうたん張りの学年広場（ワークスペース）や吹き抜けの空間のある作品展示広場などがあり、子どもたちの創造性を培うとともに好ましい人間形成がされるよう工夫や配慮がなされている。

本校は、創立以来理科学習や国際理解、大淀川学習等の県・市指定研究学校としての実績や花壇コンクール、合唱コンクール等における数多く受賞など輝かしい経歴があり、宮崎市内においても先進的な学校として評価を受けている。

過去のその他の受賞歴は以下のようになっている。特に県合唱コンクールは昨年度まで過去5年連続の金賞を受賞し、歴史の浅いという点から言っても輝かしい栄誉である。平成9年度には全国大会での金賞受賞があり、このことは本校のみならず地域の誇りとしても輝いている。

昨年度に、創立20周年の式典があり、その際にも多々の歴史を紹介し、現在の子どもたちのもとより、地域の方々や来賓の方々ともその栄誉を分かち合い、小松台小学校のこれまでのすばらしい歴史を共に感動し、さらなる飛躍を約束したところであった。

2 児童の実態

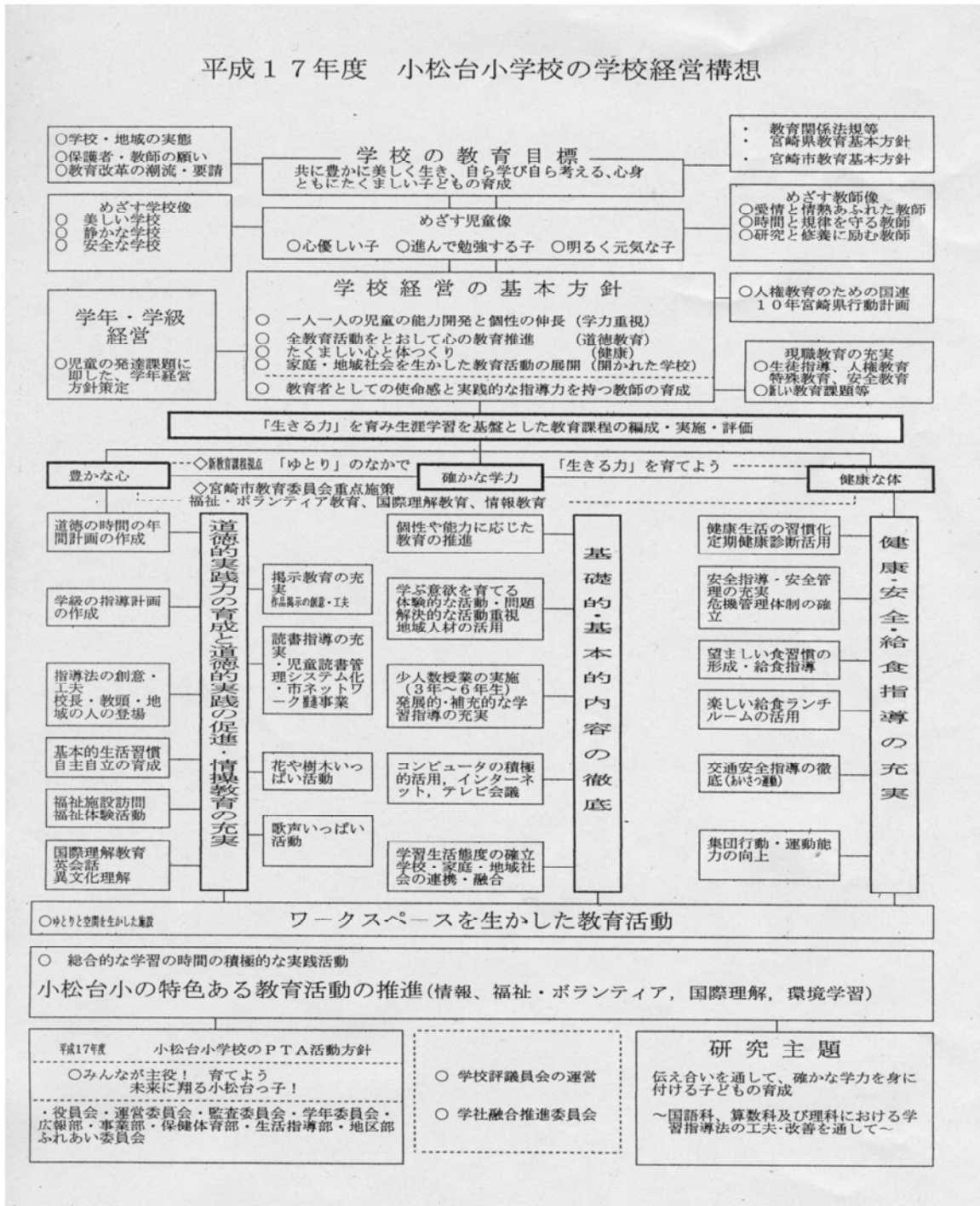
小松台地域は、新しく開発された新興住宅地であり、そこに居住する人々のものの考え方や気性も個性的で様々であるが、激しい時代の流れに敏感に反応して生き抜いた強さをもつ。その中から本校の教育の支えとなる優れた物を掘り起こし、それらに根ざした教育の在り方を工夫することが要請される。

特に、この小松台地域に息づくフロンティア精神を土台にしながら、これに裏打ちされた活力あふれる学習活動を創造し、自ら学ぶ態度や能力の育成を図ることは、本校教育の基礎を培うとともに郷土の発展のために欠くことのできない要件である。本校の子どもたちはこうした保護者の影響のもとに優れた素質と能力を受け継いでおり、学力において高い理解力を示している。特に抽象的な言語や数の概念による思考の能力、計算力や数的推理力、観察力などにすぐれている。今後の成長過程における課題としては、その場に応じた「コミュニケーション能力」を高めると共に、「高次の情緒力と論理的思考力」の育成を図ることが大切だと思われる。

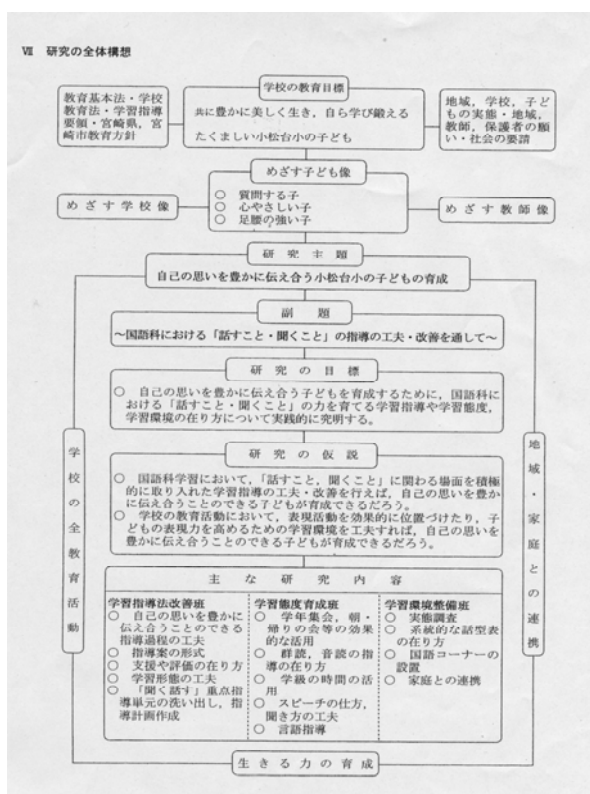
また、本年度より初めて実施された宮崎県下一斉学力テストについてもすばらしい成績を収めることができた。しかし、理科学習については、課題が多々残り、改善の必要性を感じている。

以上のように、本校の子どもたちは、学力的には高いものの二極化傾向は打破しなければならない状態にもある。地域や保護者の協力体制も整っている学校のよい現状を生かしながら、さらなる改革・改善に取り組む必要がある。

3 学力向上に向けた経営方針



4 教育課程内の取組 (国語科) 主題「自己の思いを豊かに伝え合う小松台小の子どもの育成」



Ⅶ 研究の内容

研究項目	具体的な研究事項	16年度	17年度	18年度
基本的な考え方	研究主題及び副題についての基本的な考え方	◎	○	○
学習指導法改善班	自己の思いを豊かに伝え合うことのできる指導過程の工夫	◎	◎	○
	指導案の形式	◎	○	○
	支援の在り方	◎	◎	◎
	評価の在り方	○	○	◎
	学習形態の工夫(ポスターセッション、ディベート、パネルディスカッション等)	◎	◎	◎
学習態度育成班	「話す・聞く」重点指導単元の洗い出し、指導計画作成	○	◎	◎
	学年集会、朝・帰りの会等の効果的な活用	◎	◎	○
	効果的な群読、音読の指導の在り方	◎	◎	◎
	学級の時間(スキルタイム)の活用	○	○	◎
	スピーチの仕方、聞き方の工夫	◎	◎	○
学習環境整備班	系統的な言語事項の習得(表現力育成のための言語指導)	○	◎	◎
	子どもの国語科学習についての実態調査	◎	○	○
	系統的な話型表の在り方	◎	◎	○
	国語コーナーの設置	◎	◎	◎
	家庭との連携	○	○	◎

(1) 各種活動 群読集会の様子



聞く姿勢の指導も重視しています。

授業風景(フローアを使って、子どもたちが主体に進めていく)



児童主体の話合い活動も多様に取り入れています。

(2) 算数科(少人数指導)の指導体制

- ・少人数指導(3・4年:非常勤講師)(5・6年:常勤講師)の充実
- ・学級担任と少人数指導加配教員との打ち合わせの充実

5 教育課程外の取組

(1) 朝の活動（帯時間の活用） 8：15～8：35（20分間）

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
職員朝会	読書タイム	集会関係	スキルタイム	教育相談

(2) 放課後の時間 会議を精選して、個別指導の時間を確保

6 保護者・家庭、地域との連携

- ・ 読み聞かせ会の充実(各学年ごとに組織が成立でき、各学年で読み聞かせ会が充実している。)
- ・ 家庭学習での充実（宅習、宿題などを進んで点検、補充指導をさせていただいている。)
- ・ 個人面談の充実（夏休みに実施した個人面談の際に「家庭学習の進め」をお願いした。)
- ・ 地域との連携の場を多様化（オープンスクールの実施のみならず、生活科・総合的な学習の時間などに参加してもらったり、学校行事「ふれあい in 小松台」での講座の講師を依頼したりしながら学校教育の充実に努めている。)

7 成果と課題（次年度の取組を含む）

(1) 成果

- ・ 学校経営の方針が一枚岩になり、学年・学級の指導の充実につながった。その要因として学年での一致した指導の共通実践が効果的であったと思われる。
- ・ 地域・家庭との連携を生かしながら、家庭学習の充実が学力向上の支えとなり、学校教育の充実につながっていった。学校での学びが生活での学びになり、さらに学校での学びの充実につながるようなリンクができつつある。
- ・ 学校での学びの説明責任を果たしていったことで、学校教育の意義が伝わり、地域・家庭の協力・支援が得られ、さらなる充実に結びついていった。

(2) 課題

- ・ 学力の二極化を解消するための手立てとして、個別指導の充実や発展的な指導と補充的な指導の工夫改善に努める必要がある。そのための指導法の研究や指導計画の作成に努めていく。
- ・ 達成目標の分析をさらに行い、共通実践を今後も深めていく必要がある。